

詠む広場

毎日俳壇

井上 康明 選

片山由美子 選

小川 軽舟 選

西村 和子 選

汽水湖に水漬く朽木や春の雨

浜松市 久野 茂樹

△評▽汽水湖は、淡水に海水が混ざり合う湖。その朽ち木に春雨が降る。湖と雨の色彩、寒暖が混ざり合い、朽ち木が浮かび上がる。門の柱目や鶴の引へんか

周南市 九内 千沙

△評▽門を閉じようとかんぬきを引く時、美しい正目を眼前にした。そとそと鶴が北へ帰っていく頃。樹にこころありて建国記念の日

富士市 後藤 秋臣

漣は沼の喜び春来る

唐津市 梶山 守

ただ思ふだけの人あり風光る

甲斐市 松田 健嗣

おだやかな空の笑ひや春の雷

川越市 岡部 申之

牙返る鉛筆の音投票所

奈良市 伊東 勝

通学路背丈を超えし雪の壁

青森市 小山内豊彦

ヴァレンタインチョコにピンクの封筒を

東京 小栗しづゑ

魚水に上る見るからに重さうに

越谷市 安居院半樹

窓といふ窓に二月の雪が舞ふ

鹿児島市 平川 玲子

△評▽舞うように降り続ける春の雪に見とれている。窓といふ窓にという描写は、雪国で暮らす人のものとは違つて感慨を思わせる。自転車修理待ちをり蝶の屋

平塚市 日下 光代

△評▽少し待ってれば済む程度の修理。季語のもつとどかさが、一句に明るさをもたらす。縄跳びを母に習ふ子春隣

越谷市 安居院半樹

サインして受け取る封書梅の花

神戸市 常澤 俣子

悴む手摩りながらの立ち話

北九州市 土師 光子

トーストとバナナジュースと窓の雪

神戸市 大田 雅一

娘らも還暦となり桜草

東京 石橋万喜子

それぞれの枝の形に春の雪

東村山市 新田須美子

燕来るシンフォニーのふくらりと

行田市 吉田 春代

休館の長き図書館返る

松山市 楠本 武

ロコミに入るうどん屋日脚伸ぶ

東京 木内百合子

△評▽ロコミで店を決めることが増えた。このうどん屋も評価が高いのだらう。季語から早めの夕食かと想像される。早番の道に残月返る

横浜市 吉野 暢

△評▽夜明け前の出勤。今朝は春らしからぬ冷え込みだ。行く手に寒々と月が残っている。ストーブの隣譲られ朝のミサ

新居浜市 寺村 洋子

ビル街の夕映淡く寒明くる

神戸市 松元 一師

如月や波紋きらめく川の底

芦屋市 瀬々葱坊主

ゆりかもめ潮入川の洲を埋め

多賀城市 矢崎 英敏

初午や幼の前を風の道

大分市 赤峰 宏史

エンディングノートの余白春隣

羽曳野市 袴田 俊一

人生の引込線や冬北斗

橿原市 佐藤 雅之

春まだき朝日に匂ふ土竜塚

須賀川市 伊豆 周治

臆病な猫いつの間に恋の猫

芦屋市 水越 久哉

△評▽子猫の時から飼っているのだらう。あんなに臆病だったのに、今はふてぶてしいまでに恋に一筋。作者の思いは複雑。日向ほこ心の隅に死後のこと

津山市 森下 弘

△評▽はた目にはのんびりどかな情景だが、心の内は誰にも計り知れない。首里城の復元間近さくらの芽

福山市 武藤 弘海

春雪や赤き帯解く吟醸酒

長浜市 中島 正則

みそかごと一つや二つ春の闇

春日市 林田 久子

梅咲いて空家増えゆけばかりなり

笠間市 伊藤 邦夫

ひもすがら森のささめき木の芽風

千葉市 高橋 信子

寒の明け何時も冷たき女の手

岡山市 三好 泥子

早春賦口遊みつつまを研ぐ

葛城市 八木 誠

白梅や息吸うために息を吐き

大阪市 ハマサキミチヨ

アプリで

推し短歌

アプリ「57577」の投稿からユーザー人気をふまえて歌人の天野慶さんが選歌と評を担当します。アプリは右のQRコードまたは<https://tanka.one/>からダウンロードできます。



短歌アプリ

57577



お題「静」

・エアコンの音だけが僕に寄り添って夜のじまに寂しさが鳴る 雪原あおい
寒くて長いひとりの夜。いつのまにか自分だけを残して無人になってしまったような世界。エアコンの低音だけが空気を震わせそと寄り添ってきます。「じま」という言葉や歌の静しさが深まり、「寂しさが鳴る」で読者のそれぞれに響く音の余韻が広がりました。

・三月の校舎の扉閉じられて長い廊下に影ひとつのび フウリン*

学校は音であふれています。授業中の先生の声、板書の音、椅子を引く音。放課後はさらに、運動部の掛け声、吹奏楽部のチューニングの音、休憩時間の笑い声も。だからこそ、みんなのいない3月の静けさは際立ちます。廊下にいる「あの子」もちょっとだけリラックスです。・終電をふたり静かに送り出し時計はしばし見ない約束 アラカギ

最終電車がやってくるときのざわめき。ガタゴトと去ってから、駅員さんたちは掃除や点検を始めます。急に静まり返った周囲に溶け込んで無言のふたりですが、心の中は決してそうではありません。不意に延長されたお別れまでの時間。これから、長い夜が始まります。

※次回のお題「別」(4月14日掲載)